

刺し網漁業 公表用実技試験問題（専門級）

1. 作業の安全

(1) 安全装具の装着・収納（3分）

①ゴム長靴、合羽、作業用救命衣、ヘルメットを装着する。

②装着物を外し、正しく収納する。

(使用機材) 各自通常使用中の上記装具

2. 漁具の製作・補修

(1) ロープの結び方（8分）

①かえる又結び ②巻結び ③もやい結び ④バックスプライス

(使用機材) 長さ2m、中程度の太さのロープ数本

(2) 漁具の製作（40分）

2mのロープに浮子を固定し、浮子綱を作成する。

次に、この浮子綱に網地を取り付けて刺し網を製作する。

※詳しくは別紙参照。

3. 漁具・漁労機械の操作

(1) ワーピングエンドの操作（6分）

ロープ50mをワーピングエンドで巻き上げる。この場合、巻揚げの反対側端に5～10Kg程度の錘（鉛錘、鉄錘、サンドバック或いはプラスチック缶に水を入れたもの等）を取り付けておく。

(使用機材) ロープ50m、ワーピングエンド（キャプスタン、縦ローラー或いは横ローラー）

4. 漁獲物の処理

(1) 漁獲物の選別（2分）

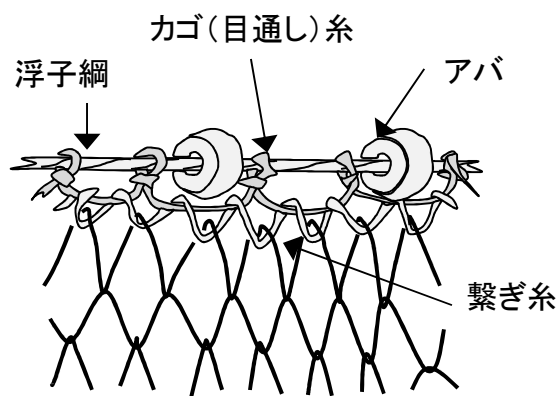
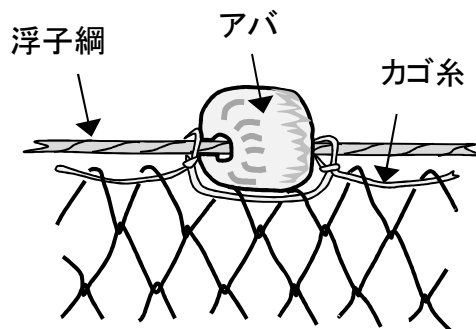
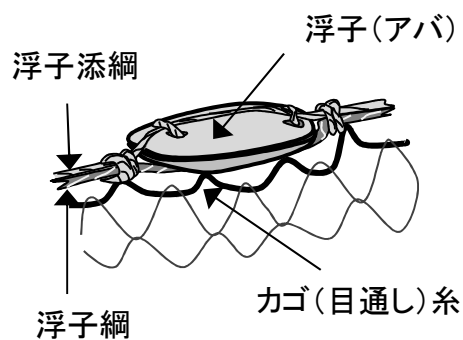
漁獲対象魚種の写真40枚を見て、魚種ごとに選別を行う。（試験地により3種類以上の魚種を組み合わせる。）

(使用機材) 上記漁獲物の写真・・・大日本水産会が用意

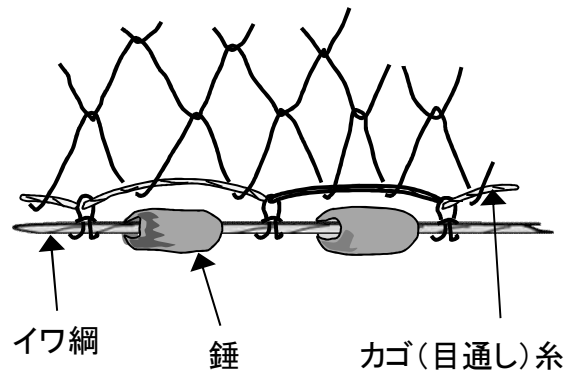
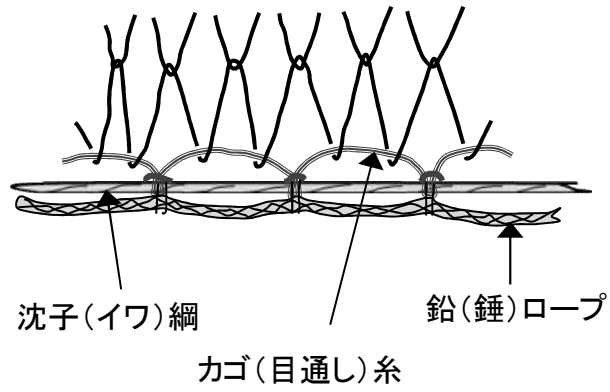
以上

《別紙》

基本的な材料としては、①浮子（アバ）、②浮子綱、③網地、④沈子綱、⑤沈子、⑥繋ぎ糸類各種となる。浮子側は、使う浮子により、添綱が必要になる場合もある。また、沈子綱側は、錘ロープの場合と鉛や陶器の錘を使う場合で多少の仕立て違いが生じる。浮子側の仕立ては、次の通り。どれでも良い。



沈子側の仕立ては次の様なもの。



上記は標準的な仕様。地域や漁業者によりもっと簡単にしたり、複雑にしたりするが、上記が基本なので、これのどれでも良い。